



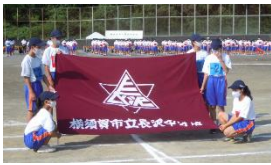
# かけはし

令和2年(2020年)  
9月30日  
発行責任者  
校長 星野 嘉朗  
NO. 4  
長沢中  
学校だより

学校教育目標 自己を高め 他を思いやり 自立できる生徒を育てる  
深く考え行動する生徒



## やり切ることが力に、 やり切ることで次のステップに 令和2年度体育祭



9月の第1週、第2週は猛暑の日が続き、体育祭が縮小であっても、熱中症への対策は

どうしようかと悩んでいましたが、実際の取り組み期間に入った第3週は空気が入り替わったように涼しい日や雨が続きました。しかも、体育祭の練習は雨に降られることなく非常に順調に行うことができました。今年度の体育祭は、コロナ禍の影響を受け、応援、デコレーション、フォークダンスをおこなわず、競技も学年種目や集団で行う種目をやめ、走る競技を中心に、縮小というよりは、今までと全く違った体育祭となりました。



応援などの団活動も行えず、今までの活動の伝統を次につなげることができるのか？という心配もありましたが、コロナへの集団感染を防止し、生徒の健康と安全を守ることを第一に行うこととなりました。地域にも公開せず、保護者の見学も3年生の保護者の2名以内と限定し、受付でPTAの役員の方にチェックをお願いしました。

このような体育祭でしたが、生徒は3年生のリーダーを中心に、一つ一つの競技や開閉会式に真剣に取り組む姿がとても印象に残り



ました。日常からの積み上げが土台となった「記憶に残る」体育祭でした。3年生からは「長沢中の体育祭の



伝統を次の代に引き継ぐことができた」という言葉もありました。自然と競技での応援にも熱が入りましたが、整然とした動きに3年生の自治的な力の高さを感じさせてくれた半



日間でした。少ない取り組みの中でもそれに向けて全力で取り組み、やり切ったからこそ、次のステップに

しっかりと各学年が活かしてほしいと思います。4日間の休みが明けてからの授業は、落ち着いた状態で取り組んでいると感じます。特に3年生は以前よりも真剣に取り組むという空気を感じます。学校の日常は授業です。前期終了は間近ですが、ここから自分たちで授業をつくっていくことができるか、本当の自立に向けて一步を踏み出さねばなりません。

体育祭では地域や保護者の皆様に大変ご迷惑をおかけしましたが、大きな混乱もなく今年度の体育祭を終えることができ、日頃からのご支援・ご協力ともに大変感謝しています。



今後とも、よろしくお願いいたします。

## フロンティア研究の研修会を開きました！

体育祭の取り組みが始まった9月14日(月)に、本校が昨年度から横須賀市から研究委託を受けている、フロンティア研究の今年度第1回目の研修会を研究のスーパーバイ



ザー 西留安雄先生をお招きして行いました。

ご承知のとおり、昨年度より、「主体的・対話的で深い学びを視点とした授業づくり」をテーマに4年間をかけての研究です。「生徒が自ら授業をつくっていくと

いう授業のスタイルを追求」し長沢スタンダードの確立から、授業を単なる教師が教えるというものから、生徒に学び方をつかませ、生徒自らが学びに向かって進み、学力の向上を目指そうというものです。教師自身が学ぶことで、学びの質を高め、今までとは違った

授業のスタイルを追求することで、来年から始まる新たな学習指導要領の下での授業にも対応していかなければならんと考えています。今回は3年3組で貝塚先生が国語の授業を2年



2組で藤井先生が数学の授業を行いました。コロナ禍で、年度当初の予定は大幅に変更せざるをえなくなりましたが、教科ごとの学習リーダーの育成、学習リーダーを中心に授業が進む、教師ばかりがしゃべる授業ではなく、生徒自身が問題意識を持ち自分たちで学びを進めていく、少しずつですが、質の高い学びの形と生徒一人一人の学力の向上の両立を目指して今後も取り組んでまいります。

## 教育実習生3名が実習を

今年度はコロナのため3カ月遅れで、教育実習の先生方を受け入れました。3～4週間の予定でしたが、今年度は2週間という短い期間でした。長沢中学校の卒業生が2名、他の中学校の卒業生ですが、教科の関係で1名の3名が、9月7日（月）から体育祭の19日（土）まで実習を行いました。それぞれに「アツイ」2週間だったようです。



沼田尚之先生は長井中学校の出身ですが、教科の都合（技術科）で影山先生の指導と藤井先生の2年2組の

学級での実習でした。技術という教科が大好き！という授業でした。

本校の卒業生で、渡辺力樹先生は保健体育を担当。指導教官は中学校時代お世話になった岩松先生。菊地先生



の3年1組の学級での実習でした。プロサッカーの選手を目指している中で「教える」というところに目線がいったとのこと。プレーすることと教えることの違いに戸惑いながらの授業でした。



同じく卒業生の定久優香先生は英語、小川先生が指導教官となり岸上先生の1年1組の学級で

実習を行いました。教師という立場になって、学校というものを体験できたこと、教師という職業の魅力を感じながらの実習でした。